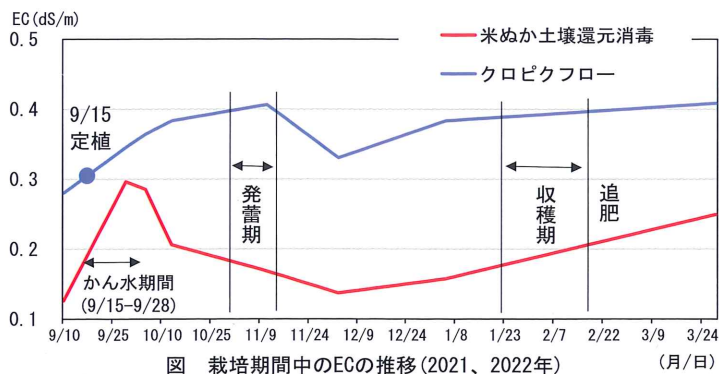


米ぬか 1t/10a を用いた土壌還元消毒の トルコギキョウ切り花品質への影響



注1) 定植日は2021年9月15日。基肥は米ぬか土壌還元消毒区はなし、クロピクフロー区は窒素成分で10kg/10a施用。
注2) クロピクフロー区は、クロピクフロー30L/10aを処理。



写真 収穫開始前の米ぬか土壌還元消毒区

表 生育と切り花品質

品種	土壌消毒方法	発蕾日 (月/日)	第1着花節位 (節)	収穫日 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	側枝数 (本)	有効花蕾数 (個)	ブラスチング (個/株)	花径 (mm)
レイナホワイト ver2	米ぬか土壌還元消毒	11/ 3	9.0	1/29	60.1	54.7	2.8	4.7	0.8	88.2
	クロピクフロー	10/31	9.4	1/23	69.4	90.3	2.9	4.4	1.3	96.6
セレブリッチ ホワイト	米ぬか土壌還元消毒	11/12	9.9	2/15	79.3	88.8	2.8	5.1	0.3	95.3
	クロピクフロー	11/10	10.2	2/21	83.3	125.1	2.9	5.2	0.4	96.8
セレブピンク 中生	米ぬか土壌還元消毒	11/ 8	9.1	2/ 5	64.0	68.9	2.4	4.5	0.3	87.7
	クロピクフロー	11/ 4	9.4	2/ 8	64.1	105.5	2.9	4.3	1.3	92.4
グラナス ライトピンク	米ぬか土壌還元消毒	11/10	11.2	1/27	64.3	60.5	2.9	5.4	0.2	81.8
	クロピクフロー	11/ 9	11.7	1/26	67.0	79.8	2.8	4.8	0.9	87.0

注) 定植日、米ぬか施用量、クロピクフロー処理量は図の注釈と同じ。

県内のトルコギキョウ生産地では、近年、立枯病による採花率の低下が問題になっています。そのため、土壌病害が多発するほ場では、米ぬかやふすまを用いた土壌還元消毒が広く行われています。しかし、土壌に多くの窒素が残るとブラスチング(蕾の発育停止)を引き起こす可能性があることから、米ぬかの施用量は他品目で効果が実証されている 1t/10a に対し、300～500kg/10a しか投入されておらず、十分な防除効果が得られない可能性があります。

そこで、安定した立枯病防除効果が期待できる米ぬか1t/10aを用いた土壌還元消毒を行った場合の、切り花品質への影響を調査しました。

土壌に残る米ぬか由来の窒素量をEC(電気伝導度：硝酸態窒素含量の推定に用いられる指標)で推定したところ、1番花終了までトルコギキョウでは問題になること

の0.1～0.3dS/mと低い値で推移することが分かりました(図)。

切り花品質で見みると、クロピクフロー区は切り花長や切り花重においてボリュームのある花となった一方、ブラスチングはやや多くなりました。土壌還元消毒区では、土壌中窒素が少なかったと推定され、切り花品質でのボリューム感は劣りましたが、ブラスチングの発生は少なく、切り花として問題のない品質となりました(表、写真)。

このことから、米ぬか1t/10aを用いた土壌還元消毒においても、栽培期間中に米ぬか由来の窒素が土壌に過剰に残る可能性が低いことが分かりました。

今年度も引き続き同じほ場で同様に土壌還元消毒を行い、2年目の土壌病害への効果や切り花品質への影響を確認する予定です。

(花き担当 門田いづみ 088-863-4918)